

一般社団法人日本循環器看護学会
平成30年度 第2回理事会議事録

- 1 日 時 2019年6月23日(日)11時00分から13時00分まで
- 2 場 所 日本赤十字看護大学広尾キャンパス共同研究室1
〒東京都渋谷区広尾 4-1-3
- 3 出席者 宮脇郁子(副理事長)
落合亮太、加賀谷聡子、角口亜希子、小泉雅子、瀬戸奈津子、竹原歩、仲村直子、
西田和美、篠持知恵子、三浦英恵、明神哲也、山田佐登美、若林留美
(以上理事)
以上理事18名中14名出席(定足数9名)
眞嶋朋子(以上監事)

4 会議の目的事項並びに議事の経過の要領及び結果

以上のとおり定款第28条の定める定足数を満たす理事の出席があり、本理事会が成立したので、定刻、吉田理事長の欠席につき、宮脇副理事長が代行で議長席に着き、開会を宣し、議事に入った。

第1号議案 平成30年度第1回理事会議事録(案)確認の件

宮脇副理事長より、平成30年度第1回理事会議事録(案)が示され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

第2号議案 新規入会・退会者の承認の件

瀬戸総務委員長より、新規入会者・退会者の一覧が示され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。入会希望者が176名、退会希望者が59名であった。

第3号議案 令和元年度事業計画(案)の件

宮脇副理事長より、令和元年度事業計画(案)が示され、各委員会委員長より令和元年度事業計画について説明がなされた後、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

1) 学術委員会

三浦学術委員長より以下の活動計画について説明がなされた。

- (1) 日本の循環器看護領域の学術的発展の推進のあり方の検討を目的として、海外の循環器看護に関連する会との交流(The Global Cardiovascular Nurse Leadership Forum (GCNLF)など)
- (2) 循環器看護領域の学術的基盤の構築と発展に向けた、循環器看護の定義の検討および策定
 - ① 諸外国における (GCNLF を基盤に) 循環器看護領域の用語、定義の情報収集および分析
 - ② 「循環器看護」の定義案のパブリックコメントの収集
 - ③ 循環器看護の定義および Scope of Practice の明文化と公表
- (3) 教育セミナーの開催 (2~3回/年)

開催場所: 東京・大阪・仙台(サテライト会場として検討) 内容: 末期心不全患者の緩和ケア等 開催時期: 検討中

- (4) 将来的な教育セミナーのあり方の検討(WEBセミナー、e-learning、診療報酬との連動を意識した研修内容の検討など)

2)学会誌編集委員会

篠持学会誌編集委員長より以下の活動計画について説明がなされた。

- (1) 日本循環器看護学会誌年2回(第15巻第1号,第15巻第2号)の発行、第16巻第1号の発刊準備
- (2) 電子投稿システム運用の評価・改善(継続)
- (3) 専任査読委員増員の検討(継続)
- (4) 投稿原稿の活性化へ向けての対策の実施
- (5) 第16回学術集會での委員会セミナー・投稿相談会の開催

3)政策・診療報酬委員会

山田政策・診療報酬委員長より以下の活動計画について説明がなされた。

- (1) 診療報酬改定にむけて循環器看護分野からの医療技術、診療体制等についての提案
- (2) 医療保険に関する外部機関への会議等の出席、および渉外
 - ①看護系学会等社会保険連合
 - ②その他関連の会議
- (3) 心不全患者の再入院予防介入プログラム研究の継続

4)広報委員会

落合広報委員長より以下の活動計画について説明がなされた。

- (1) 学会ホームページ 会員専用コンテンツの充実
- (2) 会員の研究・臨床実践活動に関する広報活動推進
- (3) ニュースレター第13・14号の発行

5)倫理委員会

加賀谷倫理委員長より以下の活動計画について説明がなされた。

- (1) 申請のあった研究に対して、規定に基づき倫理審査を行う
- (2) 個人情報保護に関する問題が生じた場合に対応を行う
- (3) 本学会の研究に関する「利益相反指針」を運用する
- (4) 研究以外の学術集會活動における「利益相反指針」を作成し、運用する
- (5) 一般社団法人日本循環器看護学会倫理綱領に関する問題が生じた場合に対応を行う

6)国内交流委員会

仲村国内交流委員長より以下の活動計画について説明がなされた。

- (1) 本法人の国内の循環器看護関連法人・学会・研究会などを中心とした諸団体との交流をはかる。
 - ①委員が所属する関連他学会の活動、理念を集約する。
 - ②関連法人、学会、研究会とのジョイントシンポジウムの企画、およびジョイントシンポジウム開催の承認、座長の推薦等を行う。
- (2) 関係諸団体との本法人の窓口となる

7)選挙管理委員会

角口選挙管理委員長より以下の活動計画について説明がなされた。

- (1) 法人第2期における選挙にむけた計画

①選挙にむけたスケジュール計画

②2020 年度選挙にむけて投票用紙案作成

(2) 2020 年度選挙について理事会の承認を得る

また、伊藤選挙管理委員長より、2015 年から 2 期連続務めた理事について、三浦(稚)理事、池亀理事、伊藤理事、宇都宮理事、岡田理事、田村理事、齊藤理事であることが報告された。2 期連続で務めた理事は投票用紙の投票欄に斜線を引くこととする。

8)総務委員会

瀬戸総務委員長より以下の活動計画について説明がなされた。

(1) 各委員会の活動支援、調整

(2) 理事会、社員総会、会員総会の運営補助

(3) 会員獲得に関する事業

(4) 定款、規定の評価・見直し

(5) 心不全認定看護師の活動支援

以上の事業計画については次回理事会にて承認することとする。

第 4 号議案 令和元年度予算(案)の件

宮脇副理事長より、令和元年度予算(案)が示され、各委員会委員長より説明がなされた。

1)学術委員会

三浦学術委員長より各予算科目について説明がなされた。

・今後の教育セミナーについて、検討中ではあるが、今後、東京と大阪で同時ライブ配信をすることを考えており、委託費にセミナーサテライト配信費用を概算で挙げていること以外は、トータルでは昨年とあまり変わりはない。

2)学会誌編集委員会

簗持学会誌編集委員長より各予算科目について説明がなされた。

3)政策・診療報酬委員会

山田政策・診療報酬委員長より各予算科目について説明がなされた。

4)広報委員会

落合広報委員長より各予算科目について説明がなされた。

5)倫理委員会

加賀谷倫理委員長より各予算科目について説明がなされた。

・通常審査の有無の状況で費用が変わってくる。通常審査申請があった場合に、対応できるように費用を計上している。申請がない場合は支出を抑えられる予定である。

6)国内交流委員会

仲村国内交流委員長より各予算科目について説明がなされた。

・委員の臓器移植関連学会参加のための交通費と対面会議(1 回)の交通費を予定している分を計上している。

7)選挙管理委員会

角口選挙管理委員長より各予算科目について説明がなされた。

8)総務委員会

瀬戸総務委員長より各予算科目について説明がなされた。

・旅費・交通費について、次年度は社員総会を学術集会会期外で行うため、社員の交通費を考慮しプラス 500,000 円にて計上している。

・交際費について、前年度は計上していないが、御礼品等を用意する場合を想定して次年度の予算に組み込んでいる。

第 5 号議案 看保連への「医療技術提案書」の提出について

山田政策・診療報酬委員長より、資料をもとに、看保連へ提出した「医療技術提案書」について、「①心不全再入院予防指導管理料」、「②末期心不全患者指導管理料」、「③在宅患者訪問看護・指導料」、「④退院時共同指導料」の 4 点それぞれの技術の概要と保険収載が必要な理由、再評価が必要な理由の説明がなされた。

第 6 号議案 日本循環器看護学会誌広告掲載について

箆持学会誌編集委員長より、資料をもとに、日本不整脈心電学会より「植込み型心臓デバイス試験認定制度試験」に関する学会誌への広告掲載の依頼があった旨、説明がなされた。また、学会誌編集委員会の審議の結果、学会誌への広告掲載については、掲載の基準を明確にし、検討してもよいという意見があり、継続審議することとなった。

本件、理事会での審議の結果、学会誌への広告掲載については、学会誌の主旨や今後、学会誌の公表方法等について検討する予定であることを鑑み、掲載しないこととなった。なお、学会 HP への掲載については、受けることとした。

第 7 号議案 日本循環器看護学会学術集会規定および学術集会開催に関する申し合わせの改訂について

箆持第 15 回学術集会長より、第 15 回日本循環器看護学会学術集会パネルディスカッションにおいて名誉会員にパネラーおよび、座長を依頼する際の旅費、宿泊費について、吉田理事長、学術集会事務局と検討し、大会長の判断で、交通費、宿泊費を支払った旨、説明された。これを踏まえて、今後、名誉会員の講演料や旅費等について明確にしておく必要があるため、以下の日本循環器看護学会学術集会規定、学術集会開催に関する申し合わせを下線の加筆部分のように提案、審議した結果、承認されることとなった。

【学術集会規定】

修正後	修正前
(学術集会の会計)	(学術集会の会計)
第 13 条 学術集会の収支については、部門会計として学術集会特別会計を設けて処理する。	第 13 条 学術集会の収支については、部門会計として学術集会特別会計を設けて処理する。
2 収支余剰金は、本会一般会計に繰り入れられるものとする。	2 収支余剰金は、本会一般会計に繰り入れられるものとする。
3 本会の規程に従って実施し、負債がでた場合は、本会が負担する。	3 本会の規程に従って実施し、負債がでた場合は、本会が負担する。
第 14 条 会長は、予算および決算を理事会に報告し、社員総会で報告しなければならない。	第 14 条 会長は、予算および決算を理事会に報告し、社員総会で報告しなければならない。
2 予算は、前年度学術集会時の対面理事会に報告しなければならない。	2 予算は、前年度学術集会時の対面理事会に報告しなければならない。

<p>3 会長は決算報告書について学術集会終了後の理事会に報告し、承認を受けなければならない。</p> <p>4 学術集会における謝金および旅費に関しては、本会の「謝金に関する細則」および「旅費、会議費等に関する細則」を参考とするが、学術集会ごとに定めることができる。</p> <p>(1)学術集会における正会員の座長、講演に関する謝金、旅費等は発生しない。</p> <p>(2)名誉会員が講師、座長の場合は、講演に関する謝金は支給しない。ただし、<u>旅費等は大会長の判断で支給することができる。</u></p>	<p>3 会長は決算報告書について学術集会終了後の理事会に報告し、承認を受けなければならない。</p> <p>4 学術集会における謝金および旅費に関しては、本会の「謝金に関する細則」および「旅費、会議費等に関する細則」を参考とするが、学術集会ごとに定めることができる。</p> <p>(1)学術集会における正会員の座長、講演に関する謝金、旅費等は発生しない。</p>
---	---

【学術集会開催に関する申し合わせ】

修正後	修正前
<p>1. 講師・演者・座長等</p> <p>(1)座長については、可能な限り理事・監事・社員、名誉会員、正会員から選出するようにする。</p> <p>(2)会長講演の座長は、基本的に、翌年度の学術集会長が行う。</p> <p>(3)講師・演者・座長が会員の場合、参加費と懇親会費は自己負担とする。また、講演料、交通費及び宿泊費は支給しない。礼状または記念品を会長名で渡す。</p> <p>(4)<u>名誉会員が講師・演者・座長の場合は、講演料は支給しない。ただし懇親会費、宿泊費、交通費は大会長の判断で支給することができる。礼状または記念品を会長名で渡す。</u></p> <p>(5)一般演題・交流集会を除く企画の講師・演者・座長が非会員の場合、参加費と懇親会費を免除する。講演料や旅費・宿泊費等は本会の謝金に関する規程、および旅費・宿泊費等に関する規程に基づいて支給する。また、礼状や記念品は大会長名で渡す。</p>	<p>2. 講師・演者・座長等</p> <p>(1)座長については、可能な限り理事・監事・社員、名誉会員、正会員から選出するようにする。</p> <p>(2)会長講演の座長は、基本的に、翌年度の学術集会長が行う。</p> <p>(3)講師・演者・座長が会員の場合、参加費と懇親会費は自己負担とする。また、講演料、交通費及び宿泊費は支給しない。礼状または記念品を会長名で渡す。</p> <p>(4)一般演題・交流集会を除く企画の講師・演者・座長が非会員の場合、参加費と懇親会費を免除する。講演料や旅費・宿泊費等は本会の謝金に関する規程、および旅費・宿泊費等に関する規程に基づいて支給する。また、礼状や記念品は大会長名で渡す。</p>

第 8 号議案 　　その他(第 17 回学術集会企画委員について)

宮脇副理事長より、第 17 回学術集会企画委員(現理事より 3 名)について、竹原理事、仲村理事、篠持理事が推薦され、議場にその承認が求められたところ、全員異議なく承認された。

(報告事項)

1. 月毎年会費納入件数について

瀬戸総務委員長より、資料をもとに、月毎年会費納入件数について報告がなされた。2019 年 1 月 31 日現在で会員 1470 名中、入金者が 775 名、会費納入率が 52.7%である旨、報告された。

また、現在の郵便振り込みやコンビニ払いに加え、カード払いできるようにしてはどうかと提案があり、総務委員会で学会支援機構の手数料等を考慮の上、検討することとなった。

2. 看保連 第 2 回診療報酬体系のあり方に関する検討委員会(2019 年 2 月 19 日)について

山田政策・診療報酬委員長より、資料をもとに、「2020 年診療報酬改定に向けた看保連の基本方針」と、3 つの重点要望「①健康の回復および疾病の進行や重症化予防に貢献できる看護ケア実践への評価」、「②療養の場の移行期を支える看護ケア実践への評価」、「③効率的な医療・看護に貢献できる看護ケア実践への評価」の説明があった。3 つの重点要望を踏まえて、4 月に本学会から 4 つの提案書を提出した旨、説明された。今後は 8 月に厚労省とのヒアリングが予定されている旨、報告された。

3. 看保連 総会並びに平成 29-30 年度研究助成 成果報告会(2019 年 4 月 26 日)について

山田政策・診療報酬委員長より、資料をもとに、看保連 総会並びに平成 29-30 年度研究助成 成果報告会の説明がなされた。総会は、加盟学会一覧や新役員(理事)5 名の紹介がなされた。成果報告会については、3 題演題発表があり、本学会からは「心不全増悪で入院した患者への専門看護師・認定看護師による再入院の予防介入プログラムの効果」という演題で宇都宮明美先生が中間報告の形で発表された旨、報告された。

4. 第 15 回日本循環器看護学会学術集会におけるジョイントシンポジウム開催報告

仲村国内交流委員長より、資料をもとに、第 15 回日本循環器看護学会学術集会におけるジョイントシンポジウムの開催報告と今後の課題事項等の説明がされた。詳細は以下の通り。

【開催概要】

日時:2018 年 10 月 27 日(土)

テーマ:循環器病の経過に合わせた栄養管理

座長:日本循環器学会;岡山大学 循環器内科 伊藤浩先生

日本循環器看護学会;榊原記念病院看護部 池亀俊美先生

【開催までの課題】

1)学術集会と学会事務局の役割

(1)座長や演者の依頼は、学術集会長の名で行う予定であったが、学術集会事務局では、学会のジョイントのため、学会事務局が行うとの誤解があった。

(2)国内交流委員会:学術集会長,と学術集会事務局、学会事務局双方の役割を明確化した文書などを準備し

ておく必要がある。

2) 学術集会の座長や演者の旅費負担

- (1) 今回のジョイントシンポジウムでは、日本循環器学会が推薦した座長、演者は日本循環器学会が旅費、参加費を負担することを事前に確認していたため、座長の伊東先生、演者の岡先生は、日本循環器学会が旅費・参加費を負担した。
- (2) 当学会側の座長が推薦した演者に関して、非会員の場合は学術集会が旅費、参加費を費用負担することが内規に記されていた。演者 5 名のうち、4 名が非会員であり、ま 3 名が遠方であったため、学術集会の費用負担が増した。
- (3) 国内交流委員会：座長を推薦するところまでが、企画、開催の承認と座長の推薦までが委員会の仕事であり、座長が演者を選定する時の条件(会員、旅費の配慮)については関与していなかったが、今回学術集会側に負担をおかけすることになった。座長を推薦し、依頼するときには、どの学会が演者の参加費等を費用負担するか、確認し、座長にその配慮を依頼することも委員会の役割として必要である。

5. 第 15 回学術集会実施報告

簗持第 15 回学術集会長より、資料をもとに、標記事項について説明がなされた。

詳細は以下の通り。

1) 大会長

簗持知恵子(大阪府立大学大学院 看護学研究科)

2) 学術集会テーマ

「トランジションを支える－変わりゆく社会に求められる循環器看護－」

3) 会期:2018 年 10 月 27 日(土)～10 月 28 日(日)

一般演題募集期間 2018 年 3 月 5 日～5 月 9 日

延長期間 2018 年 5 月 10 日～5 月 16 日 5 月 17 日～5 月 23 日

4) 開催場所

会場:大阪国際交流センター

〒543-0001 大阪市天王寺区上本町 8-2-6 Tel:06-6772-5931(代)

5) 参加者数 会員 516 名 非会員 857 名 学生 10 名 合計 1383 名

6) 参加費用 (事前) 会員:3,294,000 円 非会員:4,770,000 円

(当日) 会員:1,500,000 円 非会員:4,180,000 円

学生: 30,000 円

合計 13,774,000 円

7) 特別講演等企画内容

<特別講演>

特別講演 1(海外招聘講演)「トランジションとケアコーディネーション:看護の役割」

10 月 27 日(土)10:20～11:20

School of Nursing Oregon Health & Science University 和泉成子 先生

特別講演 2 「重症心不全患者の治療と緩和ケア」

10 月 28 日(日)9:20～10:20 大阪大学大学院医学系研究科循環器内科学 坂田泰史 先生

<市民公開講座>

「生老病死との向き合い方～様々な迷いへの処方箋～」

10月28日(日)10:40～11:40 法相宗大本山薬師寺 大谷徹英 先生

<教育講演>

教育講演1「トランジショナルケアと循環器看護」

10月27日(土)13:20～14:20 兵庫県立大学 看護学部 岡田彩子 先生

教育講演2「看護に役立つエコーの知識とレポートの読み方」

10月27日(土)13:20～14:20 杉岡内科医院 杉岡憲一 先生

教育講演3「維持期と地域の心臓リハビリテーション」

10月27日(土)15:00～16:00 大阪産業大学 佐藤真治 先生

教育講演4「循環器疾患と認知症の不思議な関係」

10月28日(日)9:20～10:20 兵庫県立姫路循環器病センター 寺島明 先生

教育講演5「循環器看護における患者－看護師関係と倫理」

10月28日(日)10:30～11:30 千葉大学大学院看護学研究科 手島恵 先生

教育講演6「トランジションを支える看護教育の在り方」

10月28日(日)13:20～14:20 関西医科大学 看護学部 安酸史子 先生

教育講演7「循環器看護に活かすフィジカルアセスメント 効果的な看護インターベンションのために」

10月28日(日)14:40～15:40 東京女子医科大学大学院看護学研究科 小泉雅子 先生

8)一般演題

一般演題 口演 57 題 ポスター42 題 および 最優秀演題 4 題 合計 103 題

9)優秀演題 36 題のエントリーがあり、最優秀演題候補 4 題を選出

最優秀演題審査会日時 10月27日(土)10:50～11:50

審査委員長 瀬戸奈津子 先生

10)懇親会

日時:2018年10月27日(土)18:30～20:30 会場:ホテルアウイーナ大阪

大阪市天王寺区石ヶ辻町 19-12 Tel:06-6772-5931

参加費:6000円 参加者 77 名(事前登録者 23 名、当日参加者 54 名)

11)企業等の共催

◇寄付(1社)

協和発酵キリン株式会社

◇助成・共催(2団体)

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団 公益財団法人 循環器病研究振興財団

◇ランチョンセミナー(7社)

エドワーズライフサイエンス株式会社 東洋羽毛関西販売株式会社 興和創薬株式会社

ニプロ株式会社 帝人在宅医療株式会社 日本コヴィディエン株式会社 テルモ株式会社

◇展示(15社)

アスタリール株式会社 株式会社モレーンコーポレーション アルケア株式会社

株式会社ヤマト イーエヌ大塚製薬株式会社 サンスター株式会社 大塚食品株式会社
辻本メディカル株式会社 株式会社ケアコム 東洋羽毛関西販売株式会社
株式会社VIPグローバル TOTO株式会社 株式会社メディカルプロジェクト
ルベラス ウエノ 株式会社メルシー

◇書籍展示・販売(3社)

株式会社クマノミ出版 株式会社ニホン・ミック 株式会社神陵文庫大阪支店

◇広告(19社)

アクテリオンファーマシューティカルズジャパン株式会社 株式会社メハーゲン
旭化成ファーマ株式会社 株式会社モレーンコーポレーション
アステラス・アムジェン・バイオフーマ株式会社 グリーンホスピタルサプライ株式会社
アステラス製薬株式会社 社会医療法人純幸会 関西メディカル病院 株式会社医学書院
泉工医科工業株式会社 株式会社学研メディカル秀潤社 中央法規出版株式会社
株式会社照林社 Taste&See 株式会社南江堂 TOTO株式会社
株式会社メヂカルフレンド社 バイエル薬品株式会社 株式会社メディカ出版

12)事務局業務委託先

株式会社JTB 西日本MICE事業部

13)収支報告

日本循環器看護学会書面理事会(平成31年4月5日開催)で報告し、承認済み。

14)学術集会アンケート結果

回収数122名(参加者の8.8%)。

(1)全体の満足度

109名からの回答があり、「とても満足」～「全く満足しなかった」の5段階評価で「とても満足」、「概ね満足」
合計、88名(81%)が満足と答えていた。

⇒回収数が少ないが、ある程度の学会員の満足につながる開催内容であったと評価したい。

(2)会場について

「人数に対して会場が狭すぎる」「会場が狭すぎて参加したいプログラムに参加できなかった」「休む場所やごみを捨てる場所もなかった」

「会場のトイレが少なかった」「第1会場以外は狭い」

⇒会場の狭さに関する指摘が多数あった。

(3)プログラムについて

「行きたいプログラムが重なっており、参加できないのが残念だった」

「全体的な内容として興味深く、新しい事柄も多く、とてもよかったので、少しずつ規模を拡大し、内容を充実させて続けてもらいたい。多職種との連携は今後も重要で看護のアイデンティティを考えるうえで重要だと思うのでプログラムを増やしてほしい」

「実践で活用できる教育講演がとても勉強になった」「在宅領域の講演も聴いてみたい」

「参加型が面白かった」「各施設での取り組みも聞けて参考になった」

「最優秀演題審査会に初めて参加したが、勉強になった。演者が皆すばらしかった」

⇒プログラム内容は満足できるものであった。

(4)運営等について

「アプリを用いた電子抄録サービスを導入してほしい」

「会場までの案内をもう少ししてほしい」

「プログラムの内容に合わせて、会場の広さを考えてもらいたい」

「1日目は会場の誘導など案内がよくなかった」

⇒会場が狭かったため、誘導等への配慮が必要。

(5)今後の本学会への期待について

「日本循環器看護学会が社会ニーズに応えて果す使命、役割が多岐であることを認識した。

政策提言などをして、医療現場の変革に団体としてのリーダーシップを発揮されるように祈る」

「循環器、心不全に関する学会はたくさんありますが(心不全学会、心リハ学会、日循など)、看護

の学会ということで参加しやすいです。また、急性期と慢性期に分かれている学会もありますが、

循環器は急性期から慢性期、終末期まで関わるので、ぜひ今後も学会を継続してってください」

⇒参加者が本学会や学術集会への意義や期待を確認する機会となった。

6. 第16回学術集会準備状況報告

眞茅第16回学術集会長の代理で落合理事より、資料をもとに日程(スケジュール)の説明がなされた。

- ・開催日程:2019年11月2日(土)~3日(日)
- ・会場:北里大学白金キャンパス・北里大学プラチナタワー
- ・運営会社:株式会社サンプラネット メディカルコンベンション事業部

7. 第17回学術集会準備状況報告

特になし

以上